

21世紀に生きる

北海道旭川商業高等学校長 我妻 公裕

本校は、1922（大正11）年5月、道北の開発拠点である旭川市に、経済界を担う人材の育成を目的に開校され、95年に及ぶ歴史を刻んできました。

この間、全日制、定時制を合わせて、25,000名を数える卒業生が、市内はもとより、北海道内外で、海外でと、「いざやいざ」に込められた思いを励みに、3年間の学びで培った力を思う存分、それぞれの場所で発揮され、「旭商ブランド」は創られ、確固たる信頼を築いてきました。

21世紀生まれの子どもたちは、「ミレニアム・プロジェクト（新しい千年紀プロジェクト：1999年12月19日内閣総理大臣決定）」による「夢と活力に満ちた次世紀を迎えるために、今後の我が国経済社会にとって重要性や緊要性の高い情報化、高齢化、環境対応の三つの分野について、技術革新を中心とした産学官共同プロジェクトを構築し、明るい未来を切り拓く核を作り上げるものである」の施策によって、様々な豊かさを享受しています。

「誰もが いつでも どこでも コンピュータ」の時代から、「Internet of Things」（IoT：様々なモノが、インターネットと繋がり、相互に情報の交換と制御をしあう）社会となり、「アナログからデジタル」、「携帯電話からケータイ」、「スマートフォンからスマホ」へと、小型軽量化した携帯情報端末装置は、「豊かで、安全な暮らし」を実現する機器として、「スマホを片手に」の時代となりました。

また、「Artificial Intelligence」（AI：人工知能）技術は、ロボット工学全体を進歩させ、様々な利活用を促し、労働力としての役割を果たすだけでなく、「安全で安心な社会」の創造にも生かされてきています。

しかし、如何に技術が進歩し、社会生活が便利になろうとも、「豊かさ」や「幸せ」の尺度を持つのは人です。使う使わないの判断も、善し悪しの判断も人が行います。そして、もちろん創るのも人です。

「地域、社会に貢献する人づくり」を目指す私たちは、商業科4学科の専門性を生かし、生徒一人一人が「探究と創造する力」を身に付けた産業人として本校を巣立ち、後に続く「旭商生」を導いてくれることを期待しています。

教職員一同、教育活動の改善・充実に努めてまいります。

ご支援、ご協力をお願いいたします。